遂に工場を閉鎖す

職工全部に公休を與へて退場せしむ

熔鑛爐の冷却を防ぐに全力を盡す

製鐵所附近職工の姿見えず

所當局は別項の諭告を職工に傳達すると共に職工全部に
へ退場せしめたり、七日午後六時交替入所すべき職工にも
を傳へて入所せしめず今や製鐵所内には一人の職工の姿
が爲め製鐵所は熔鑛爐を冷却せしめざる樣警戒を怠ね滑
込ましめて少量宛石炭を投入し中央機關の冷却を防ぎ居
日夜迄公休する旨掲示せり

所當局は

厳断行

姫路以西各都市駐在の
憲兵隊々八幡に集る

職工間の形勢益不穏

休の形勢益々不穏を示し種々の流言蜚語
より製鐵所當局も最早や策の施すべき餘
認め八日朝に至り斷然高壓的政策を執るに決し
以西山陽山陰鳥取山口下關等各憲兵分隊より憲兵
め此等増援憲兵は續々として八幡市に到着しつ

更に一機

東京に向ふ

サラ及びボルレロ兩中尉の發案せる今一隻のカプロニー式飛行機は本日東京に向つて出發せり（國際電報十九日發）

急行列車椿事

衝突と脱線

二月四日夜佛國デジョンに於て重大なる鐵道事故突發したり里昂行急行列車は貨物列車と衝突し客車三臺破碎し即死者十八名負傷者三十五名を出したり（國際マルセーユ四日發）

◎モントリオール行急行列車進行中廣軌車一臺脱線して堤防より氷結中のチャンプレーン湖に墜落し負傷者三十名を生じたるが幸に死者は一名も出さざりき（國際ペーリントン一月卅一日發）

九日朝から平常通り

市内四箇所に於て友愛勞友兩會合同報告大演說會を開き當局の不滿意を攻撃し聯絡ある勞働團體の理想的運動を開始して要求を貫徹するまでこれを繼續すべしと叫し居れり、尚ほ憲兵の大增派は不穏朝鮮人に備ふるためなりといふものもありて人心惶々たり（八幡來電）

二基は騒動前から修繕中

【竹下工場課長の談】

八日午前十一時竹下工場課長は語る

全工場の團鎖の後製鐵所にては一部活動しつゝある動力、銑鐵、電氣

つき鑪は今回の騒ぎの爲め休業したとの風說あるが事實無根である八日午前六時の交替後に入所してある職工は二千六百名で七日夜忘

傷の閉
り同時刻から平常の如く全職工を
入場せしめ作業を開始するか針で
あるが今後形勢如何により閉鎖を
繼續するや否やそれは明言すること
は出來ない七日夜の當所の諭示
にて職工側に於ても諒解したる筈
であるから九日からは必ず出業し
得ると信じてゐる（八幡來電）

製鐵所の回答

諭告の中に答辯を交へて

一般職工に配布す

製鐵所にては七日午後一時白仁長官の訓電に接し製官除の幹部五十名を大會議室に召集諭告發表後萬一騒擾の勃發の際に於ける之が撫策並に部署を定めたる後總員七百名の警戒隊の編成替を行ひたるが午後四時半に至り左記諭告並に曩に勞友會職工連より提出せる要願書に對し答辯を印刷に附し一般の職工等へ配布せり

諭告

本月五日以來當所内にて職工を感誘して作業を中止せしめ甚しきは之に暴行を加へ又は之を誘惑する等の行動をなし或は送電を中止し機關の附屬品を破壞し作業の進行を中止せしむる等の所業をなし騒擾を起し今尚全く鎮靜に至らざるは不都合の至りにて深く遺憾とする所なり當所職工職夫は之等の亂暴なる脅迫煽動の爲攪亂せらるゝ事なく沈着自重専業を生ぜざる樣努むべし此際要願書爲め各要願事項につき本所の既に行ひたると及意の在る處を示す

一、職工の臨時手當及臨時加俸を本俸に引直すことは四月以降之を行ひたき見込にて既に其豫算を編成し目下帝國議會に提出中なり

一、勤務時間
從來の通り
一、宿所は從來の如
ず
一、職夫賃金
通過せは四月以降
すべき理由あり
右の如くなるを以て
事を望む
大正九年二月七日

中川次

製鐵所事件勃發以來上長官は別して勤務所内に詰切り種々の
中川次長以下高等官休の有樣にて不穏職工
後策につき寸時の休
中川次長の如きは僅に
て數分間の睡眠を得た
それがため次長及び
の如きは神經衰弱に陥
をさへ提出した
の